

ハンドブック ワンポイント レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

ジュニアの指導をしています。

先日のジュニア大会で次のようなことがありました。ゲームが進行してデュースとなり、さらに2ポイントを片方のペアがとったので正審はゲームのコールをした。このときゲームに負けた方のペアから質問ができました。内容は「そのペアがポイントカウント3-2でリードしていて、さらに1ポイントを取ったので、あの時点で4-2でゲームになっていたはずである」というものでした。

正審がポイントのスコアを確認したところ、そのとおりであったので、ゲームの勝敗を逆転させようとした。しかし、相手側のペアから、「ゲームのコールしたのだから、さかのぼって訂正することはできないはずである。」と主張された。正審は判断しかねていましたが結局訂正しませんでした。

正しい処置を教えてください。

Answer

ポイントカウントの誤りについてはそのゲーム内に再判定を行なうことができます

ジュニア大会等では、スコアの書き間違いやポイントカウントの間違いがよくあります。今回のケースでは、質問を受け入れ確認したところ質問の通りであったことが判明したわけですから、「内容を確認し判定に誤りがあれば勇気をもって判定の訂正等を行うこととする。」(審判規則第14条 [解説25]) こととなります。

しかし、質問がどの時点までなら訂正できるかが今回の問題となります。前のポイントの決着がついて正審から次のポイントのコールがあって、サービスをする為に手からボールが離れる瞬間までの時間に質問をされることが有効範囲となっています。そのことは、[解説19]の後半の「次のポイントとは、…」に説明がしてあります。今回のケースでは正審は「ゲーム」のコールをして

いますが、次のポイントに入っていないこととなりますので質問は認められることになり再判定の対象にもなりません。

ジュニア大会等では1級審判員の方がレフェリー及びコート主任を務めていただくことをお願いいたします。またジュニアの指導者の方にもハンドブックの内容をご理解いただくようお願いいたします。ルール(ハンドブック)を理解している者と知らない者の違いは、勝ち・負けに影響しますので、研修研鑽に努力して下さい。



【関連規則】

競技規則第43条 (提訴) [解説19]

提訴は次のポイントに入った場合、行うことができない。ただし、ポイントカウントの誤りについてはそのゲーム内に、ゲームカウントの誤りについてはそのマッチ内に限り提訴することができる。次のポイントとは、サービスをするプレーヤーが、サービスをしようとして、手からボールを放した瞬間までをいう。

審判規則第14条 (再判定) [解説25]

1. 競技規則第40条において異議の申し立て等を禁止したが、プレーヤーから判定に対し質問等があった場合は、内容を確認し判定に誤りがあれば勇気をもって判定の訂正等を行うこととする。
2. ポイントカウントの誤りについてはそのゲーム内に、ゲームカウントの誤りについてはそのマッチ内に再判定を行うものとする。